

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成3年1月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800034
法人名	医療法人 三徳会
事業所名	グループホーム希望の家
所在地	鹿児島県出水市六月田町361番地 (電話) 0996-64-8802
自己評価作成日	令和2年12月13日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成3年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

希望の家では、季節を肌で感じていただくために積極的にドライブや散歩などに外出しています。
当施設は、隣接する医院を母体としており、医院の多職種のスタッフと、朝夕の申し送りやミーティングを通じて密に連携をとり、利用者様やご家族様に安心して利用いただけるよう努めています。
個別機能訓練計画書をもとに機能訓練を行い、筋力の維持、転倒防止、誤嚥予防、認知機能の維持に努めるよう取り組んでいます。
また、併設しているデイサービスと、花植えや野菜作りなど畑を一緒に使いながら楽しみを共有しています。
当事業所の理念である「ふれあい・技術・共有」を意識しケアに取り組むことで利用者様の表情やしぐさ、発する言葉を大切に思い、記録に残し、申し送りで個々の状態を共有できるように努めています。
管理栄養士が作成したメニューで、バランスの取れた食事を提供しており、利用者様の毎日の大きな楽しみの一つとなっています。また、利用者様から協力をいただき、ホットプレートや鍋などを使用したリクエストメニューと一緒に作り、喜んでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市役所から車で5分ほどの幹線道路沿いに、平成20年に母体の医療法人(ホームの協力医療機関)、ディサービス事業所に隣接して設置されており、周辺にはスーパーマーケットや大型商業施設、個人商店等が立ち並んでいて利便性も十分である。平屋構造のホームは、日当たりが良くウッドデッキや菜園等が整備されて家庭的な環境となっている。協力医療機関とは毎日申し送りの報告を行うなど常に情報を共有し、健康管理や疾病の治療等が徹底されて利用者や家族の安心に繋がっている。防災訓練等を合同で実施し、また、平日の昼・夕食の副食は法人母体の医療機関から調理済の物が届けられるなど協力体制を築いている。
管理者及び職員は理念に沿って、利用者が家庭的な雰囲気の中で生きがいのある平穏な暮らしとなるような支援に日々努めている。日頃から利用者及び家族の思いや要望を把握し、利用者主体のケアに取り組んでおり、信頼関係が築かれている。また、年間の外出や行事を計画し、利用者の意向や体調に配慮しながら取り組んできているが、現在は新型コロナウイルス感染の予防に配慮して、外出計画や地域のイベントの多くが中止状態である。このような状況の中でも、家族との交流を図るためにガラス越しの面会やリモート、電話、手紙等工夫して関係性の継続に努め、また、予防に配慮しながら墓参やミニドライブ、初もうで等に取り組んで利用者のリフレッシュを図っている。
管理者は、職員と気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築しており、日頃の業務の中やグループホーム会議時に積極的に意見や要望の把握に努め、個人的事情にも配慮しながらサービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。有給休暇取得やケアに関する助言・指導、計画的な研修の実施、資格取得へのバックアップ等に日頃から努めており、外部研修時の受講料等には法人の助成制度もあり職員の就労意欲向上に繋がっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全スタッフで共有し、それに基づいた支援が出来るように常に意識しています。	ホームの理念に「触れ合い」「技術」「共有」を掲げ、確認しやすいようにディールーム等に掲示し、ネームプレートの裏面やパンフレットにも記載して共有している。日頃の業務の中や申し送り、ホーム会議（週1回）等で、ケアの振り返りや意見交換を行って理念に添った支援の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住み慣れた環境で地域の一員として生活されています。	自治会に加入し地域の情報を把握して集会やイベント等に参加し、散歩や買い物時には地域の人と会話を楽しみ、野菜の差し入れ、家族・友人の面会、施設見学、ボランティア等の受け入れ、高齢者福祉に関する地域の人からの相談にも対応するなどの関係が築かれているが、現在は、新型コロナウイルスの感染予防のため買い物やボランティアの受け入れ等は自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	相談があった際には説明などしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方に参加していただき意見交換を実施しています。	会議は定期的（年6回）に開催し、ホームや利用者の状況、ヒヤリハット事例、行事等の報告を行い、委員からはケアや感染症に関する質問や意見等が出されている。本年度は新型コロナウイルスの感染予防に配慮して、少人数の委員（自治会長、行政職員、デイサービス事業所）で開催して改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時など市町村担当の方と連携を図っています。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、ホームの運営や感染症予防に係る相談等を電話や窓口に出向いて行い、指導や助言をもらうなど、日頃から協力関係を築いている。最近はコロナ感染症に関する相談や協議を行う機会が増加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準は目の届く場所に貼りだしており全てのスタッフが周知できる環境を整えています。また、定期的に勉強会を実施しヒヤリハットや事故報告の対応策を考えるとときなど「拘束をしない」対策、ケアの方法で話し合い実施しています。日曜日の居室整備時にも壁より10センチ以上で柵二本を徹底しています。	身体拘束や高齢者虐待、権利の擁護については、身体拘束適正委員会の開催や施設内研修を計画的に実施し、ケアの振り返りや意見交換で認識を共有している。また、指針も整備しており「虐待がない」「虐待を見過ごさない」の姿勢で、利用者主体の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。スピーチロックや不適切な言葉遣いを行うことのないように日頃から意識して適切なケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、すべてのスタッフが意識しお互いに注意できるような環境を作ることによって「虐待がない」「見過ごさない」職場の雰囲気作りに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎週行っているホーム会議や年二回の面談を通して話し合いの機会があり反映させている。会議以外でも日常的に話が出る環境です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や入所時などに利用者様の不安やご家族様の不安など尋ねながら対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様には常に意見や要望などなど尋ねています。	利用者の意向を日頃の会話や仕草、独自のサイン等で理解し、家族からの意見、要望は面会や電話、手紙等で利用者の状況を伝えながら聞き取りに努めている。現在、コロナウイルスの感染予防に配慮してイベントや家族会等の開催は自粛し、毎月発行の「きぼうのいえだより」や利用者毎にコメントで状況を伝えて要望等を把握し、改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週のホーム会議や年二回の面談時以外でも日頃からスタッフとのコミュニケーションを図っています。	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、日頃の業務の中や申し送り、ホーム会議、年2回の個別面談時に意見、要望等を聞き取り、必要に応じて個人面談も実施して改善に取り組んでいる。スキルアップを図る研修の実施や資格取得へのバックアップ、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情も配慮する等、働きやすい職場づくりに努めており、福利厚生や勤務手当の改善等は職員の就労意欲向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備にはスタッフの勤務状況やスキルを確認しながら個人面談の機会を設け相談に応じています。勤務手当の見直しなど賃金改善も随時、行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人に合った資格取得に対する意欲など定期的に確認しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議時等の意見を取り入れながらサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に本人様にお会いし不安な事や要望などの聞き取りを行っている。ホーム内での生活がスムーズに行えるよう関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様から話を伺い要望などを聞き取り関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様から要望を聞き、その方に合ったサービス支援が行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の担当を決め本人様の思いを尊重し安心して話が出来るような関係性を作ること信頼関係の構築を図っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じご家族様へ相談し、本人が本人らしく生活が出来るようにご家族様の協力を得ながら共に支えていく関係性を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別で墓参りや買い物、行きつけの美容室へ出かけるなど感染症に気を付けながらこれまでに構築してきた関係性が途切れないように支援しています。	入所時の聞き取りや日頃の利用者との会話、家族からの情報等で利用者毎の生活歴や馴染みの状況を把握し、散歩や買い物、通院、墓参、美容室等を家族と協力して取り組んできている。現在は新型コロナウイルス感染予防のため買い物等は自粛し、ガラス越しの面会やお便り、電話、リモート等の活用や、ドライブや美容室、墓参等を実施して、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士や性格を考え、誰もが孤立しないように必要に応じてスタッフが介入し話題を提供することで関わり合えるような支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり他の施設は入所されても必要に応じ相談や援助を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の日常生活の様子や会話、行動や表情など思いを汲み取れるように記録に残し、ミーティングで話し合い、本人様の支援方法を検討しています。	日頃の会話や仕草、独自のサイン等で利用者の思いを把握し、生きがいのある利用者主体の暮らしとなるよう家族の意向も伺いながら取り組んでいる。余暇時間も利用者の意向を尊重しながら、趣味（新聞読み、計算ドリル、読書、ぬり絵他）や炊事、洗濯物たたみ等の取り組みを個別に支援し、それらの成果には言葉で伝えて達成感を得てもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や本人様から話を聞き、今までの生活や本人様を取り巻く環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活を記録に残し、状態を把握することで朝夕の申し送りで課題にあげ共有しています。体調面で変化が見られた際には医院への申し送りを行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ちの担当を決めて、モニタリングの実施や三ヶ月一回の評価を実施しています。更新時にはアセスメントの見直しを行っています。	利用者や家族の意向を把握し、主治医の指示やモニタリング、3か月毎の評価時の職員の意見を基に、残存機能や習慣にも配慮した利用者主体の計画を作成している。ケアの実施状況は、申し送りや業務日誌、ケアチェック表等で共有しており、利用者の状態変化に対しては、実態に即した介護計画に修正して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の発する言葉や様子などを細かく介護記録に記入し、変化があった際はスタッフ間で情報共有に努め介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況や要望に応じたサービスの提供を行っています。本人様の購入したいものや不足しているものなどご家族様に相談しながらスタッフが購入しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ミーティングなどで一人一人が安全で豊かな暮らしが出来るように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体となる医院が主治医となり居宅療養管理指導にて月に二回の訪問診療を受けています。定期的に専門医受診が必要な方はご家族様の同意を得て受診援助を行っています。	本人や家族が希望する医療機関での治療を支援しており、他科も家族と協力して通院受診している。朝夕の申し送りを協力医療機関にも報告し、訪問診療の実施や24時間医療連携の体制も構築されるなど連携が密で、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の医院との申し送りにて情報の共有を行っています。体調の変化があった際にはその都度Drや看護師へ相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された際には状態に応じて早期に退院できるように病院関係者、ご家族様と相談しながら対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や状態変化が見られた際にはご家族様へ十分な説明を行っています。	重度化や終末期の対応については指針を整備し、利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ている。入居後は利用者の状態変化に応じて家族に説明しながら意向を確認している。重度化した時点で、主治医や職員、関係者、家族は十分な話し合いを行って、ホームで可能な限り希望に添った支援に取り組んでいるが、終末期には特別養護老人ホームや医療機関に移行している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時の対応や事故発生時等施設内の研修を行っています。また電話機近くに分かりやすくマニュアルを掲示し、慌てることが無いようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜問わず安全に避難できるように定期的な避難訓練を実施し、実際に台風で避難した際の状況を詳細に分析し、今後に生かせるようにマニュアル作りを行っています。備蓄食材の準備も行い定期的に賞味期限など確認しています。また、地域の方にも協力していただけるよう声掛けしています。	年2回夜間発生も想定した火災及び台風時の防災訓練を法人母体の医療機関や同法人のディサービス事業所と合同で実施し、避難や通報、消火器等の取扱いも研修している。昨年の台風接近時には法人母体の医療機関の2階に宿泊避難しており、その体験を活かしてマニュアルや連絡網の見直しを行い災害への認識を共有している。隣接の事業所や近隣の住民との協力体制も構築しており、災害時の食糧や飲料水等も管理表やレシピも作成して備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正委員会で話し合いを持ち、言葉のチェック表を作り常日頃より声掛けや言葉遣いを見直しが出来るように貼りだしています。特に羞恥心やプライバシーに配慮した声掛けを心掛けています。	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いよう言葉かけや対応については、研修の実施やケアの振り返り等で認識を共有し、利用者の心身の状態や習慣等にも配慮しながら思いを尊重したケアに努めている。ホームだより等への記載については入所時に意思を確認し、ホームはプライバシーが確保された構造で個人記録等も事務室で管理するなど適切に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の思いに沿ったケアが提供できるように声掛けに気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ無理強いしないケアが提供できるようにスタッフ間で共有しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時や入浴後などの衣類を一緒に選んだり、毎月の移動美容室を利用されたり行きつけの美容室がある方は出かけたり、その方らしい身だしなみができる様に支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の昼食は利用者様の好まれるメニューと一緒に作ったりテイクアウトの際にはメニュー表を使って選んでいただき食べる楽しさを感じれるように工夫しています。	平日の昼夕食の副菜は、栄養バランスや季節感等に配慮した食事が法人母体から届けられており、日曜日は希望に沿ったメニューを利用者も一緒に楽しみながら調理している。行事食や手作りのおやつ、テイクアウト、弁当購入など、食事が楽しみなものになるよう努めているが、感染症予防のため現在は外食や弁当持参の外出は控えている。利用者毎に食事の摂取量を把握し、口腔ケアも実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に二回の栄養指導を受け、主食の量や食事形態を提供しています。水分量も個人差がありますが生活日誌に記録し把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや自力で行えない方は介助しています。夕食後は義歯洗浄剤を使って清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助が必要な方には時間を見ながら声掛けし、トイレ案内しています。生活日誌を使用しながら排泄パターンを把握しパット交換を実施しています。	各利用者の排泄パターンを把握し、習慣にも配慮しながら昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。心身の状態に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に取り組み、トイレの場所は迷うことの無いよう大きく表示している。便秘の予防に食物繊維や乳製品、水分等の摂取や運動量に配慮し、主治医にも相談して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活日誌で排泄チェックを行っています。プライバシーに配慮しながら利用者様に聞き取りや便器内付着などをチェックしています。また毎夕にはヨーグルトを提供したり汁物にオリーブオイルを用いたり、腸の刺激となる運動を積極的に取り入れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に二回から三回以上の入浴をしていただいています。無理強いはせず一人一人に合った声掛けを行い安心して入浴できるように支援しています。	週2～3回以上の入浴を基本とし、排泄時の汚染等には、その都度、清拭やシャワー浴で清潔にしている。リフト浴や好みのシャンプー、温度、時間、習慣、同性介助等を柔軟に対応し個浴でゆっくり楽しんでもらい、入浴後は皮膚疾患の手当や水分補給（手作りのORS）を行っている。入浴をためらう利用者には、無理強いしないで時間や声かけ等を工夫して、利用者自身の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝、午睡時間と一人一人に合わせ支援しています。夜間帯は室温や照明に気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報を挟み薬効や副作用などすぐに確認できるようにしています。一人一人の薬箱があり間違いのないように目付や名前など確認しながらセットしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の特異な事を中心に個性を生かした役割を手伝っていただいています。感染症予防に努めながら楽しみのある生活が送れるように計画しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の影響もあり外出を控えていますが車内からの景色を楽しんでいただけるようドライブに出かけたり個別で墓参りに出かけたりしています。利用者様の希望を把握しながら思いに沿った外出支援が提供できるように努めています。	心身の状態や天候等に配慮しながら周辺の散歩や墓参、一時帰宅、美容室での整髪、外食等を家族の協力を得ながら取り組み、また、季節の花見、ドライブなども計画しているが、新型コロナウイルス感染予防に配慮して、現在は全体での外出は控えて、園庭の散歩やミニドライブ、墓参、美容室等の外出を個別又は少人数で実施して利用者のリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は財布など所持されています。管理が難しい方は事務所にて預かり必要に応じて代行で買い物をしています。感染予防のため一緒に出掛けることを控えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を使いたいといわれた際にはいつでも使えるように声掛けをしています。また暑中お見舞いや年賀状など利用者様に書いていただきご家族やご友人へ送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日掃除を行い、利用者様が不快な思いをされないような空間を維持しています。季節に合わせた壁画作成を一緒に行い、行事ごとの写真などを掲示し、生活感や季節感を取り入れ心地よく過ごせるように空間作りに気を付けています。	廊下や玄関、リビング等の共有スペースは、明るく開放感に満ちており、生花、利用者の作品、写真等が飾られ、長い廊下には手すりが整備されて歩行訓練等にも活用されている。菜園には季節の野菜や草花が植えられ、ウッドデッキで日光浴が楽しめるなど、家庭的で和やかな雰囲気である。清掃や空調、衛生管理等を徹底し、トイレの自動照明や浴室の暖房機の設定など利用者の快適な生活に向けて改善されており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の歩行状態や福祉用具に応じて動線の妨げにならないように気を付け利用者様同士の関係性を大切にし、安心して生活ができるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたテレビや椅子などを持参していただいています。またレクリエーションや行事時の写真を掲示しています。	フローリングの居室は腰高窓で明るく、エアコン、電動ベッド、タンス、洗面台等が備えられ、利用者の状況を考慮しながらベッドの高さや場所を調整している。（たんぼぼ棟の居室にはトイレも設置されている）利用者の意向を確認しながら整頓等を支援し、家庭同様に快適な生活となるように、利用者は愛着のある家族写真や小物、使い慣れた寝具、テレビ、冷蔵庫等を持ち込み、また、自分の作品等も飾って居心地の良い居室が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりがありトイレ、居室、浴室などの場所には目印をしています。また歩行の妨げにならないように工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない